

重要課題の取り組み

重要課題の選定

当社グループは、経済、環境、社会の3軸のバランスを重視した事業活動に取り組むとともに、経営基盤の強化を推進しています。

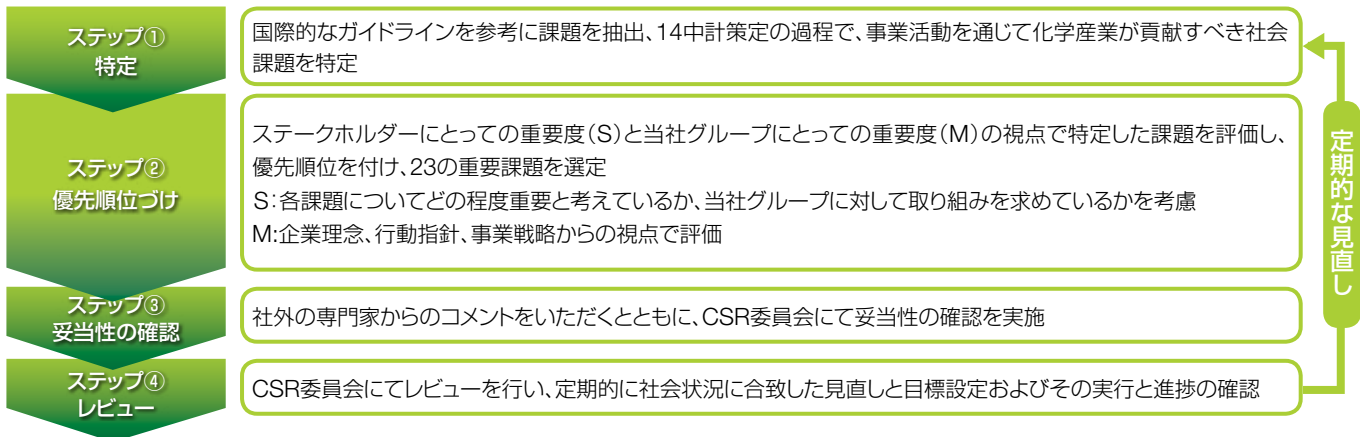
2005年にCSR専門部署を設置して以来、「本業を通じて企業理念を具現化すること」を三井化学グループのCSRとして活動してきました。2008年には国連グローバルコンパクトへ署名したほか、国際的なガイダンスからの要請への対応にも努めています。



2014年度中期経営計画の策定時に、経営ビジョンに立ち返り、「環境と調和した共生社会」「健康・安心な長寿社会」

「地域と調和した産業基盤」の実現に向けた社会課題解決への取り組みにより、事業活動を通じて社会と当社グループの持続的な発展を図っていくことを明確にしました。

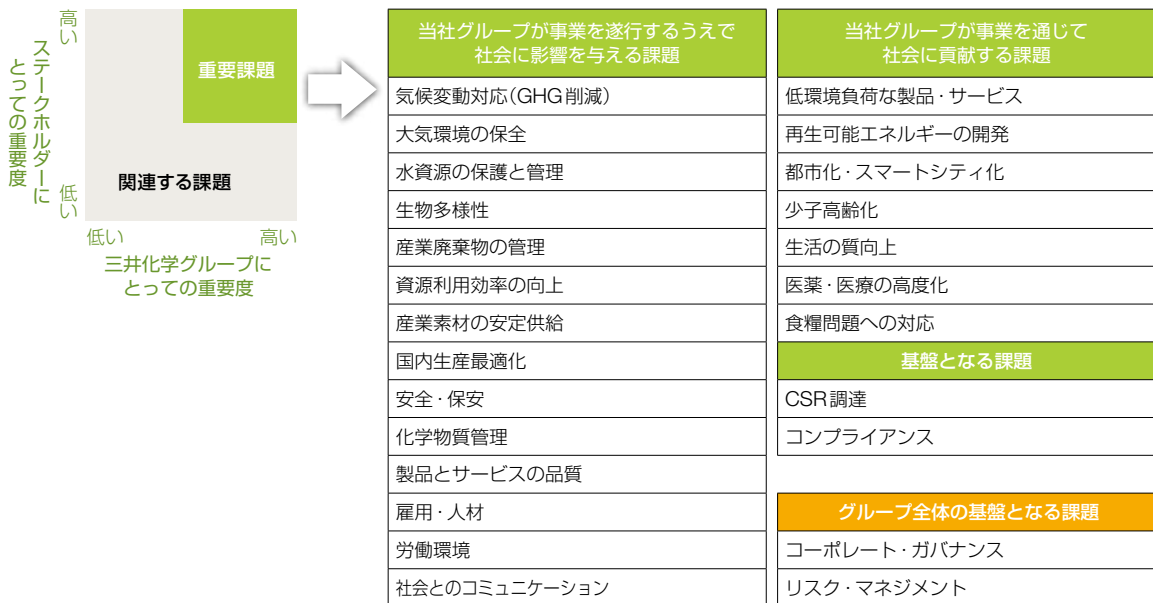
これらの実現を目指して様々な社会課題解決に取り組むために、重要課題を選定しました。各種国際的なガイドライン等を参考に、当社グループが事業活動を通じて社会に貢献する側面と、社会に及ぼす様々な影響要因の両面から、事業の特徴や活動する地域を考慮し、ステークホルダーのご意見も参考にして特定しました。今後、社会の変化や当社事業活動の変化とともに、必要に応じて見直しも行います。



重要課題の整理

選定した重要課題を、次の3つの項目に整理しました。コーポレート・ガバナンスおよびリスク・マネジメントは、これらすべての基盤となる当社グループ全体の課題として取り組んでいます。

これら重要課題への取り組みを通じて、2015年に制定された「持続可能な開発目標(SDGs)」に示された課題解決にも貢献し、事業活動を通じた社会と当社グループのSustainable Growthを目指します。



当社グループの事業活動を通じた社会課題への貢献度を図る指標づくりを行っています。その1つとして、環境への貢献価値を表す指標“Blue Value®”を独自に設定しました。

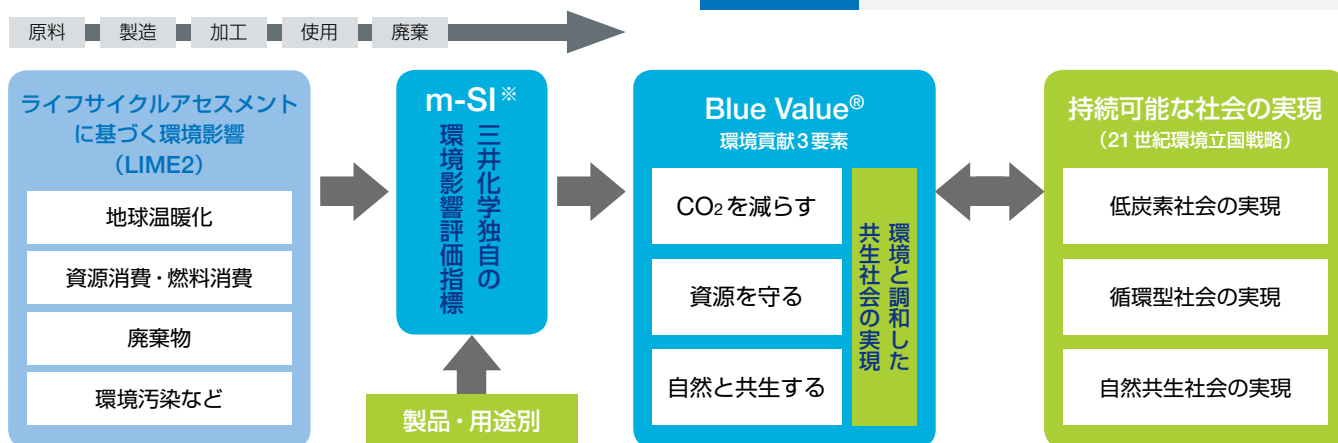
重要課題の取り組み詳細はWEBサイトをご覧ください。
<http://jp.mitsuichem.com/csr/materiality/index.htm>

未来を創る：Blue Value®

Blue Value®は、環境と調和した共生社会の実現のため、環境貢献している当社製品の価値を可視化し、お客様を含めたステークホルダーと共有できるようにするものです。

化学製品の多くは、製造、加工により最終製品となり、さらに使用して廃棄されるまで様々なライフステージを経ています。各ステージにおいて、どのような環境負荷低減ができるのかを「見える化」し、様々なステークホルダーと共有することで、さらなる環境貢献につなげることができると考えています。

製品のライフステージを通じた貢献度を評価



※ m-SI：Mitsui Sustainability Index
2013年に設定した当社独自の環境影響評価指標

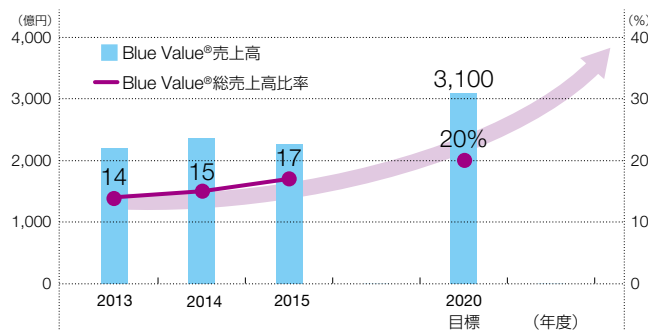
環境への貢献度を「見える化」したBlue Value®製品の拡大は、環境と調和した共生社会の実現に向かって、当社グループが着実に進んでいることを示します。本年、2020年までの目標を定めました。

当社グループは、Blue Value®製品の付加価値を、Blue Value®ブランドとして多くのステークホルダーと共有し、共に環境負荷低減の取り組みを深めてさらなる拡大を目指していきます。

当社グループは、独自の環境影響評価指標m-SIにより、製品・技術を用途別に評価し、「CO2を減らす」「資源を守る」「自然と共生する」の3要素で環境へ貢献度を判定、Blue Value®を認定します。

Blue Value®の目的

- 製品の開発から廃棄までのライフステージを通じた「環境への貢献度を見る化」
- 環境貢献価値の高い製品・サービスを開発・提供し、ステークホルダーと共有
- Blue Value®チェーンの構築により、環境と調和した共生社会の実現へ



Blue Value® 認定製品 無塗装インパネ：塗装工程の省略によるGHG削減

当社グループの自動車向けPPコンパウンドは、世界シェア第2位を誇っています。自動車の多くの部材をPPコンパウンドが担っていますが、インストルメントパネル(インパネ)もその一つ。プラスチック製のインパネ材は、30年ほど前までは高比重のエンジニアリングプラスチックが主流でしたが、技術開発の進展により低比重のPPコンパウンドが代替。その後、インパネの重量は約15~16%軽くなりました。

当社グループは、さらなる技術革新により、塗装工程が省略可能なPPコンパウンドを開発しました。

プラスチックは傷つきやすい性質があるため、自動車向け部材に使用する場合は塗装が必要でした。この工程で発生してしまうのが、VOC(揮発性有機化合物)やGHG(温室効果ガス)。

これらは大気汚染や地球温暖化の原因となります。当社グループは、環境負荷軽減のニーズに応えようと塗装工程が省略可能な無塗装インパネ材を実現し、お客様に提供しています。無塗装化により、お客様先での加工段階で、13.3%のGHGの削減に成功しました。

